

岡崎市の教育問題に関する申入れ（要求書）

1. 人事異動に関しては、人事三原則を遵守するとともに、三河教労との過去の交渉時に約束したように、教職員の希望を尊重し納得を得る人事を行うこと。

- ①異動希望調査表を作成し、教職員一人ひとりの希望を市教委が直接把握できるようにすること。
- ②全職員の希望を校長が聞き、事前の打診を行い、希望に反する異動は行わないこと。
- ③臨時教員や再任用教員等においても、本人の希望を最大限尊重すること。

2. 教職員の健康を守るために出退勤時刻の記録を正しく行うことを周知徹底し、勤務の振り替えを行うこと。また、超過勤務を減らすための具体的な提案を公募し、実行に移すこと。

- ①「出退勤時刻の記録」については、嘘の報告が常態化している。超過勤務の実態を把握し、改善を図るため、ありのままの正しい報告をするように市内全職員に向けて「通知」を出すこと。

◎ 80時間を下回る記録とするために、以下のような偽装が当たり前に行われている。

- ①毎日、同じ時間に出勤し、同じ時間に退勤したことにする。
- ②土曜日、日曜日に出勤したのに、出勤しなかったことにする。
- ③毎日、退勤時間を実際より数時間早く記録する。

※ 79時間〇〇分という記録が多いのは、記録を偽装し無理やり80時間以内に収めている証拠であると認識し、改善指導をすること。

- ②校長が80時間以上の申告をした教職員に対して圧力を加えないよう指導すること。
- ②教職員の健康を守るためには、超過した分について「振り替え」を行うことが大切である。「勤務の割り振り簿」を作成し、確実に実施するように市教委自ら指導すること。
- ③どうしたら超過勤務を減らすことができるのかについてあらゆる角度から検討すること。市教委がその先頭に立ち、すべての教職員から「超過勤務を減らすための具体的な提案」を公募し、それにもとづいて具体的な案を作成すること。

3. 行事のあり方を根本から見直してスリム化を図り、真に教育的な行事に変えていくこと。

- ①英語スピーチフェスティバル、市制記念日の式典、おかげさっ子展、陸上大会、水泳大会、理科展、技家作品展などについては、参加不参加を学校ごとに決められるようにし、どうしたら負担を減らすことができるのかについて早急に検討すること。
- ②「岡崎の心の醸成」と称し、歌や踊りを一方的に押しつけることをやめること。これは乱暴な教育内容への介入である。「ふるさとを愛する気持ち」は、各学校ごとの取り組みの中で進められるものであり、上から一律に押しつけるものでないことを周知徹底すること。

4. 教員評価を押し付け、現場に混乱をもたらすことがないようにすること。

- ①本来の教員の評価は、教員・学校の教育力の向上を図り、教師一人ひとりを励ますことを目的に行うべきものである。「屈辱感」や「敗北感」を抱かせている実態を早急に調査し改めさせること。
- ②ILOの「教員の地位に関する勧告」をふまえ、市教委は教職員の身分の尊重を期すこと。
- ③シートを出さない教職員に対して、いかなる処分も行わないこと。

5. 子どもの人権を侵害する「指導」について実態を調査し、改善すること。また、非教育的な事例には適切な指導をすること。

- ①保護者から寄せられる意見や苦情を、単に「クレーム」として処理することなく、真摯に受け止める姿勢を市教委自ら示すこと。また、指摘を受けた内容の解決方法について学校現場との連携を密にして具体的に検討すること。
- ②非教育的な事例・事件については、個人の資質の問題として終わらせることなく、学校という組織の中で未然に防ぐ方法があったのでないか、との視点で考えること。またその上で、今後生かしていく具体的な手立てを探ること。